

初の南海トラフ地震臨時情報

市長 米本 弥一郎



8月8日に南海トラフ地震臨時情報(巨大地震注意)が、気象庁から初めて発表されました。同日に宮崎県の日向灘で発生した地震を受け、巨大地震が発生する可能性が平常時より高まっているというものでした。

南海トラフ地震は、静岡県の駿河湾から九州東沖に延びる南海トラフで発生が予想される巨大地震で、過去の記録から、約90～150年間隔で起きています。前回は80年前の昭和19年に昭和東南海地震、その2年後に昭和南海地震があり、東西に分かれて起きる「半割れ」や誘発地震の発生が確認されています。

この地震によって、関東から四国・九州までの広範囲で著しい災害が生じる恐れがあります。また死者などの人的被害も東日本大震災を大幅に上回ることが想定されています。

地震や津波で大きな被害を受ける

可能性がある地域には、旭市も含まれています。今回の臨時情報では、この地域を対象に特別な注意が呼びかけられ「津波からすぐに避難できる準備を整える」「日ごろからの地震・津波への備えを再確認する」などの防災対応が求められました。

市民の皆さんは、災害への備えをどの程度できたでしょうか。初めての発表に戸惑う人も多かったと思いますが、改めて「南海トラフ地震」を知ることができ、日ごろの備えの大切さを実感したことと思います。

政府による特別な注意の呼びかけは1週間で終了しましたが、前回の発生から80年が過ぎた今、南海トラフ地震は、いつ起きても不思議ではありません。私たちが住む地域に、どのような災害リスクがあるのかを確認して、いざというときのための備えを心がけましょう。